

21世紀水倶楽部だより

発行：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部
発行者：亀田 泰武
編集：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部 広報担当
〒171-0011 東京都豊島区目白 2-1-1
URL <http://www.21water.jp/>
E-mail info1@21water.jp

第 33 号 2014 年 7 月 11 日号

ハウレンソウの乱用

理事長 亀田泰武

日本で二十年ほど前に出版されたマーフィーの法則という本がある。

「会議の効率は、参加者数と討議に要する時間に反比例する」、「専門的な知識を持たない人ほど、意見を述べたがる」など、社会事象の法則を並べた本であるが、その中に官僚主義について次のものがある。



「官僚組織では、仕事をしなくなればなくなるほど、そのことを報告するレポート作成に時間を費やすようになり、ペーパーワークが増大する。することがなくなって、全ての時間をレポート作成に当てるようになった時点で、その増加は止まり安定する。」

ハウレンソウ（報告・連絡・相談）が公務員の世界でメディアによって強制され、担当職員の創意を活かした効率的な業務執行に大きな支障になっているような感じがする。

小さな事件でもトップが知らないと言われる社会では、何事もあちこちに連絡して相談するのが一番になってハウレンソウばかりになってしまう。上役は忙しいから待機などそれにも時間をとられる。また担当者が追い詰められると意外にいい発想がでてくるが、そういう時間もなくなる。

事故などの問題が起きたとき一番先にやらなければならないのが、適切な対策を早期に打つことであるが、何事も外部委託する社会では対策も別な組織にやらしてもらわなければいけないのでいち早く意思決定をしなければならない。国道の災害管理のように現場がすぐ対応できるシステムになっていけばいいが、多くの場合そうでない。

行政の世界では、権限と責任があまり下に降りていないし、降

りていても、トップが知らないと言われる社会では、公務員の仕事が、報告、連絡、相談に費やされ、解決に役立たない効率の悪いものになる。情報化が進んでいない昔、担当部署の判断で生きた仕事が出来ていた。

情報化の時代、権限と責任が、ふさわしい場所におろされ、その責任者が対処するように効率的な運営とすべきである。また、小さなことを聞かれたら上層部は部下の所掌なので知らないと言えなければならない。

ハウレンソウを適切に運用して公務員が効率よくいい仕事が出来環境にしていかなければならない。

2014 年度通常総会報告

理事・事務局長 田野嘉男

NP02 1 世紀水倶楽部の通常総会が 6 月 20 日、(公財) 日本下水道新技術機構において開催されました。出席者 32 名、委任状 38 名で正会員総数 94 名の 7 割強の参加を頂きました。ご協力いただいた会員に感謝申し上げます。

会議の冒頭亀田理事長の挨拶では、①昨年度の 10 周年記念事業の成功 ②会員の高齢化に伴う運営の悩み ③新年度も積極的な事業実施等の話があり、ここではあまり具体的に書きたくな



いが、そろそろ執行体制の若返りの必要性についても触れられたような気がしました。

審議事項は

1. 平成 25 年度事業報告、活動計算報告、貸借対照表、監査報告
2. 平成 26 年度事業計画（案）、活動予算（案）

であり、慎重審議の結果、いずれも満場一致で了承されました。

審議終了後、会員の意見・要望等を求めたところ、数多くの提案が寄せられました。

1. 当倶楽部の HP の閲覧状況
2. 下水道に関する事業が多いが、水道関係者との連携も必要で
3. 倶楽部の名称に恥じぬよう、地下水・局所的な道路浸水等幅広い活動が必要等であります。

総会終了後、国際会議から帰国されたばかりの村上孝雄氏から講演会がありました。幅広い活動をされている村上講師の話を聞いて、報告者田野は、「目からウロコ」の思いでした。

テーマ 「IWA 活性汚泥 100 年国際会議」

講師 村上 孝雄（本会会員）

また、講演会終了後、国土交通省増田下水道事業課長、日本下水道事業団塩路理事等の来賓をむかえ、懇親会が開催されました。多くの方にご参加をいただき盛況のうちに終わりました。

会員だより

古代の水洗トイレ

竹石和夫

秋田市には中心部に立派な城跡公園があるが、これは久保田城と言い、秋田城とはいえば、そこから北東約 4km の日本海に近い古代政庁跡を言うようである。偶々 5 月の連休に訪れたところ、思いがけず古代の水洗トイレを見ることができた。

秋田城跡は、奈良時代から平安時代に亘り出羽国に置かれた地方官庁の遺跡で、733 年に庄内にあった出羽柵が移され、阿支太城と呼ばれるようになった。ボランティアの方の説明では、当時渤海の使節団が殺される事件があり、朝廷もこれではまずいとなり、役所を置いたのではとのこと。雄物川河口から 5km 程上流の高台に位置し、交通の便が考えられていたと思われる。

城跡は東西・南北 500m 余で築地塀に囲まれ、さらに内塀に囲まれた一面に政庁があった。現在は内塀の一部、外郭の東門とそ

の両側の塀が古代の工法を用い復元されている。

水洗^{かわや}廁舎跡であるが、外郭東門の外側に沼があり、その南側に渤海の使節の迎賓館があったとのことで、

それに付属して水洗トイレの建物が復元されている。建物は 3 間四方と、トイレの建物としてはかなり大きく、中は 3 室に分かれ各々便槽がある。便槽は直径 1m 余あり、2 枚の板が渡してあるが、深さは 3m 位あって下が見え、場合によっては風が吹き上げると思われるので、^{ちゅう}落着いてしゃがみ込むのは難しく感じる。用足し



の後は、木のへら（^{ちゅう}籌木）で残留付着物を除いた後、大きな瓶から水を汲み堆積物を流していた。柄杓がかなり大きいところを見ると、体まで洗ったわけではないように思える。便槽からは直径 50cm 程もある木樋が沼に伸びている。その先は沈殿槽になっているが、槽が 2 つに分かれ深さが異なる理由は不明とのことであった。

面白いのは、このトイレを外国使節等の賓客用に作った証拠として、当時の日本には豚肉を食する習慣はなかったが、沈殿槽から豚の寄生虫卵（有鉤条虫）が発掘されており、博多の迎賓施設、鴻臚館からも同じ寄生虫卵が出ているとのこと。

このような大規模なトイレの遺跡は全国的にも類がないとのことであるが、外国からのお客にトイレをきれいに見せたいという気持は、現代の我々と全く変わらないもので、1300 年前の人々が急に身近になったように感じたことであった。

現地には発掘品の収蔵庫もあり、周辺には湊町土崎の名所旧跡も多い。秋田に行かれた際は一見をお薦めする次第である。

酔童感話 2 1 川一廁、洋式便所—RestRoom

伊達萩丸

さて、会員各位の自宅トイレは和式ですか？洋式ですか？

文化の違いで、和式と洋式があるが、最近のトイレはほとんど

洋式。伝統と排便の状況から両方式の違いを検証する。

和式：廁（川屋：かわや）の言葉通り、川の上にしゃがみ排便。日本は降雨が多く中小河川が多いので、川の上に足場を作り、中央に穴を開ければ、排便は川の水で流れていく。岸辺に芦・葦等の水質浄化に優れた植物。水生昆虫、魚類等。それらが、排便を浄化する。

もちろん、トレペは無いから、排便後川辺で肛門を洗い、ちょっと拭けば清潔。

洋式：ベルサイユ宮殿の庭園等広大で、歩き回ると疲れて椅子に座りたい。当然便意もある。しかし庭園内に川は無い！仕方無く、穴開きの箱椅子を用意。その上に座り用を足す。その後の処理は不明。大体、当時の西洋女性のスカートは、針金入りで膨ら



んでおり足首までである。男も皮の長靴。しゃがむ事は不可能。穴開き椅子で用を足す以外無い。

さて現在。しゃがむより、座って排便する方が楽。洋式化が進んでいる。

ここで洋式便器だが、当初は男性が和式便器で小用の時、便器底面への距離を短くし、飛散し無い様、段差がついていた。すると小便専用の「アサガオ」が不要。しかし、しゃがむ事が大変であるから、段差式和式便器に便座を乗せ、擬似洋式として使用する様になった。排便時座るので楽になる。



次に便器から便の排出を検討。

和式：便落下部が浅い水深。便は便器下表面に付着。その便を後方水流で押し流し、前方トラップを通過させる。後方から前に押し流すから、強い水流が必要。

洋式：便落下部は、既にトラップ入口。深い水深。便は水中に落下浮遊。その後便器の縁から水を流し、便器全体洗浄兼トラップ通過、排除する。洋式の方が、便排除の高水圧水流が不要。また、便が便器に直接付着しないので、洗浄水量も少なくて済む。排便姿勢も楽。

結果、洋式便器が普及する訳だ。さらに技術は進歩。水を流す

と左回りの旋回水流が発生し、一気に便を吸い込む。萩丸はこれを「ヴォルテックス水流便排除」と命名。

なぜ左回り？台風は北半球では強風が中心方向に左回りで吹込む。中心気圧が最も低い。コリオリの力「高校物理か地学で習う」による自然力の回転。

従いヴォルテックス水流も左回転で、水圧流兼自然の力を上手く利用している。素晴らしい！

(以降次回へ)

編集幹事のあと整理

- 巻頭文は亀田理事長の「ハウレンソウの乱用」。報(告)連(絡)相(談)のことですが、組織の仕事では不可欠のことです。しかし、ハウレンソウだけで終わり、では困る、ということかと思います。
- 6月20日の通常総会の報告を田野事務局長からいただき掲載しました。理事長挨拶にあった「若返り」の必要性は編集幹事ほかの担当する「HP作成業務」にも当てはまります。若手(と言っても「比較的」若手)有志のこの業務への参加・分担を待っています。
- 会員だよりへのデビューは竹石会員「古代のトイレ」。秋田市には渤海などの大陸と交流があったのです。
- 会員だよりの連載もの、齋藤会員は再開第二話「廁から洋式トイレへ」通算は21話になります。我が家のトイレを観察すると、左回り水流を助長するための洗浄水吐出口構造になっています。南半球へも日本のトイレメーカーは売り込んでいるはずですが、右回り構造になっているのでしょうか？
- 林会員「岩手県大槌町へ」は休載です。
- 会員だよりコーナーへの投稿を募集しています。投稿はいつでも受け付けます。直近の号に掲載します。投稿要領などは望月から毎回お出ししている原稿依頼メールをご覧ください。

編集幹事・望月